障害者教育・福祉学研究
第16巻，pp. 75～83（2020）

視覚障害教育における ソーシャルスキルアセスメントツール（試案）作成の試み

相　羽　大　輔（愛知教育大学特別支援教育講座）
増　田　雄　亮（新潟リハビリテーション大学医療学部）
尾　原　健　太（愛知教育大学教育学部特別支援学校教員養成課程）
奈　良　里　紗（長野大学社会福祉学部）
佐　藤　由希恵（視覚障がい者ライフサポート機構“viwa”）

要約　本稿は，わが国の盲学校が幼児児童生徒にソーシャルスキルの指導を系統的に実践するための基礎資料を得ることを目的として，海外で開発されたアセスメントツールを翻訳・意訳・改編を加えたソーシャルスキルアセスメントツール（試案）を紹介することであった。本稿では，視覚障害児・者ソーシャルスキルチェックシート（試案）と，視覚障害児・者ソーシャルスキル発達評価シート（試案）を作成することができた。これらは視覚障害幼児児童生徒のコミュニケーションの指導において，どのような内容をどのような時期に指導すればよいかの指標として役立つ可能性が指摘できた。今後は，作成された本試案を活用しながら適宜修正を加え，わが国にあった形式として更なる改善をすることが課題として考えられた。

キーワード：盲学校，視覚障害，コミュニケーション，ソーシャルスキル，アセスメント

Ⅰ．はじめに

視覚障害を伴う幼児児童生徒（以後，幼児児童生徒）を対象とする特別支援学校（以後，盲学校）において，コミュニケーションの指導は幼児児童生徒の自立に不可欠である。ただ，一口にコミュニケーションの指導といっても扱うべき内容は多岐にわたっており，例えば，(1) 基本的な対人コミュニケーション，(2) 合理的配慮を得るためのコミュニケーション，(3) 職業的自立に必要なコミュニケーションの指導が考えられる。

このうち，(1) は，幼児児童生徒の視覚障害に配慮したものであり，基本的な対人コミュニケーションではあるものの，視覚障害教育独自のものが想定できる。例えば，幼児児童生徒は見えない，見えにくいがゆえに，相手のアイコンタクトや表情がわからず，結果的に感情のよみとりに困難さを感じることがある。この困難さを解決するためには，健常児・者が使わない情報（発話量，声のトーン，姿勢，服装等）を参考に，相手の感情を推測するといった工夫が有効とされる（中野・相羽・小松，2014）。このため，盲学校では，幼児児童生徒に基本的な対人コミュニケーションを指導する場合も，彼らの視覚障害に適した内容を指導する必要がある。

一方，(2) については，障害者差別解消法との関係から指導が必要である。現在，障害者が合理的配慮を得るためには，意思の表明が必要である（同法7条の2）。また，もし，要請された合理的配慮が過重な負担にあたる場合には，障害者と事業者の双方が建設的対話による相互理解を通じた紛争解決に努める必要がある（例えば，文部科学省所管事業分野における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針第2の2 (2)）。つまり，幼児児童生徒が合理的配慮を得るためには，彼らが自身の障害特性を理解した上で，周囲に障害開示や援助要請を行うことや，周囲と円滑にやりとりをすすめ，合意形成することが重要になる（相羽・奈良，2019; 相羽・奈良・増田・鈴木，2019; 奈良・渡邊，2019; 氏間・中野・永井・田中・竹林地・韓・相羽・大島，2019）。そのため，合理的配慮を得るためのコミュニケーションの指導は早期から系統的に実施する必要がある。

さらに，(3) については，盲学校の職業教育との関係で必要になる。盲学校には職業課程として専攻科理療科が設置されており，主にあん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師（以後，あ・は・き師）の養成が行われている。特に，「あ・は・き師は開業することが可能な資格であり，患者等への対応に必要なコミュニケーション能力を養うことは最低限必要である」という理由から，2018年度よりコミュニケーションの科目も必修化された（あ・は・き師学校養成施設カリキュラム等改善検討会，2016）。このことを踏まえ，盲学校で職業教育を受ける生徒は，医療従事職に必要なコミュニケーションを学ぶ必要がある。

このように，幼児児童生徒に指導すべきコミュニケーションには様々なものがある。それにも関わらず，わが国の盲学校では指導時期と指導内容について体系化された資料は存在せず，一部の実践研究（例えば，吉田・河﨑・池島，2012）が存在するのみである。

ところで，コミュニケーションと関連するものに，心理学の領域ではソーシャルスキルという概念があ

る。これは，「対人場面において，適切かつ効果的に反応するために用いられる言語・非言語的な対人行動と，そのような対人行動の発現を可能にする認知過程との両方を包括する概念」（相川，1996）や，「学習可能な対人関係を円滑に運営する適応能力のこと」（大坊，1998）とされており，未だ統一的な定義は存在しない。ただ，適切な対人行動をとれる者は，ソーシャルスキルが備わっていると判断できる（大坊，1998）ため，円滑なコミュニケーションに不可欠なものだと考えられている。しかしながら，ソーシャルスキルは，対象，所属集団，文化，時代等によってもあり方が異なる（大坊，2008）ため，視覚障害教育で指導すべきソーシャルスキルとは何かは，わが国独自で検討しなければならない。

一方，海外の視覚障害教育では，教師やその他の支援者向けにソーシャルスキルの指導理論・実践方法をまとめた指導書「Teaching social skills to students with visual impairment : From theory to practice」（Sacks & Wolffe, 2006）が発行されており，その中には，SSAT-VI：Social Skills Assessment Tool for Children with Visual Impairment（McCallum & Sacks, 1993）やSCA：Social Competence Assessment（Loumiet & Levack, 1991）といったアセスメントツールも収録されている。これらのアセスメントツールには，前述した医療従事職に必要なコミュニケーションに関連するものを除き，学ぶべきソーシャルスキルが網羅されており，内容ごとにおおよその指導時期も明記されている（Sacks & Wolffe, 2006）。なお，医療従事職に必要なコミュニケーションに関連するソーシャルスキルについては，現在，わが国ではオリエンス研究会（2018）が体系化に取り組んでいる。

以上のことから，本報告では，今後，わが国の盲学校が幼児児童生徒にソーシャルスキルの指導を系統的に実践するための基礎資料を得ることを目的として，SSAT-VI（McCallum & Sacks, 1993）　や，SCA（Loumiet & Levack, 1991）をそれぞれ翻訳・意訳し，わが国の実情に合うよう適宜改編を加えたソーシャルスキルアセスメントツール（試案）を紹介する。

Ⅱ．試案作成プロセス

本試案の作成にあたっては，①障害科学分野の研究者３名，②ネイティブスピーカーであり，大学院で障害科学を学んだ者１名，③特別支援教育を専攻し，外国語にも精通した教育学部の学生１名，計５名の研究チームを構成し，作業に取り組んだ。なお，研究チームのメンバーのうち，①と②については全員が視覚障害当事者であった。

作業の流れは，アセスメントツールの直訳・意訳作業を筆頭著者が行い，その内容が適切であるか否か，また，わが国の実態にあったものであるか否かという観点から研究チームの全体の合意が得られるまで編集を繰り返した。この作業に要した期間は，2019 年 4 月～ 2020 年 1 月の 10 カ月間であった。

この作業により，SSAT-VIに基づく視覚障害児・者ソーシャルスキルチェックシート（試案）と，SCAに基づく視覚障害児・者ソーシャルスキル発達評価シート（試案）が作成された。前者はTable1-1～1-3，後者はTable2-1 ～ 3 に示した。

Ⅲ．視覚障害児・者ソーシャルスキルチェックシート（試案）の概要

SSAT-VIは，視覚障害児・者のソーシャルスキルの獲得状況を全般的に評価するものであった。これは基本的な社会行動（身体表現・コミュニケーションスキル・協調スキル），対人関係（交流・関係の維持），認知社会的行動（自己同一性・社会的状況の解釈・ソーシャルスキルの遂行・自己評価）の３領域について，行動観察を通して評価するものであったため，本チェックシート（試案）もその枠組みをそのまま取り入れた。

ただし，各項目の内容については，意訳するだけではなく，特定のソーシャルスキルを遂行できるか否かというニュアンスになるよう統一し，改変を加えた。

本チェックシート（試案）の評価方法については，SSAT-VIが６件法（absent・poor・fair・adequate・good・excellent）になっていたことを踏まえ，「全くそう思わない」から「非常にそう思う」までの６件法とした。

こうして作成した本チェックシート（試案）は，ソーシャルスキルの獲得・活用状況を全般的に評価する際に役立つことが期待できる。ただし，項目の中には，まだ就学していない幼児には評価しにくい項目（例えば，31・38）や，青年期以前の児童生徒には評価しにくい項目（例えば，33・34）も含まれていることから，発達を考慮した活用に留意する必要がある。

Ⅳ．視覚障害児・者ソーシャルスキル発達評価シート（試案）の概要

SCAは，周囲との関わりと，自己概念の２領域について，ソーシャルスキルの活用状況を発達的に評価できるものであった。このため，本発達評価シート（試案）でも，SSAT-Ⅵのときと同様に，原本の枠組みをそのまま活用し，特定のソーシャルスキルを遂行できるか否かというニュアンスに各項目の内容を統一・修正した。ただし，自己概念領域には，宗教や社会保障の観点からわが国の文化では解釈が難しい項目（19・22）も含まれていたため，これらは削除することとした。

Table1-1　視覚障害児・者ソーシャルスキルチェックシート（試案）1/3

項目	原文	邦訳・意訳	全くそう思わない	そう思わない	あまりそう思わない	ややそう思う	そう思う	非常にそう思う
Basic Social Behaviors：基本的な社会行動								
A. Body Language：身体表現								
1	Maintain appropriate eye contact.	アイコンタクトが適切にできる。						
2	Demonstrate appropriate body posture.	適切な姿勢がとれる。						
3	Maintain appropriate personal body space.	適度なパーソナルスペースを保つことができる。						
4	Utilize and respond to gestures and facial expressions.	ジェスチャーや表情の活用ができる。						
5	Refrain from engaging in socially unacceptable mannerisms.	社会に受け入れられない行動(目押し等)はしない。						
B. Communication Skills：コミュニケーションスキル								
6	Positively initiate interactions with others.	他者との交流を積極的にはじめることができる。						
7	Exhibit age-appropriate interactions and conversations.	年齢相応の関わり・会話ができる。						
8	Expand conversations.	会話を広げることができる。						
9	Listen well.	よく聞こうとする態度を示すことができる。						
10	Take turns and share.	会話のやりとりができる。						
11	Compliment.	物事について、良いコメントができる。						
12	Interrupt appropriately.	適切なタイミングで会話に割り込むことができる。						
13	Demonstrate empathy and sympathy.	あいづち等を用いて、共感したり、同調したり、思いやりを示すことができる。						
14	Respond appropriately to positive and negative feedback from peers and adults.	他者からの肯定的/否定的な意見に適切に対応できる。						
C. Cooperative Skills：協調スキル								
15	Demonstrate cooperation and understanding of group dynamics.	集団行動を理解し、協力できる						
16	Demonstrate respect for group leader.	グループリーダーを尊重できる。						
17	Sustain group involvement.	グループに参加し続けることができる。						
18	Share in group activity.	グループ内で役割分担ができる。						
19	Initiate joining a group.	グループに参加し始めることができる。						
20	Lead group activity.	グループ活動でリーダーシップをとることができる。						

Table1-2　視覚障害児・者ソーシャルスキルチェックシート（試案）（試案）2/3

項目	原文	邦訳・意訳	全くそう思わない	そう思わない	あまりそう思わない	ややそう思う	そう思う	非常にそう思う
Interpersonal Relationships：対人関係								
A. Interactions：交流								
21	Interact appropriately with others 注 1	他者と適切に交流できる。						
22	Play with others　注 2	他者と遊ぶことができる。						
23	Demonstrate ability to engage in a variety of play activities.	さまざまな遊びに参加することができる。						
24	Can compromise.	歩み寄ることができる。						
25	Show awareness of common activities and interests.	共通の活動や関心事にも興味を向けることができる。						
26	Encourage the efforts of others.	他人の努力を励ますことができる。						
27	Demonstrate gratitude toward others.	周囲に感謝の気持ちを伝えることができる。						
B. Sustaining Relationships：関係の維持								
28	Demonstrate an understanding of differences between family, friends, acquaintances, and strangers.	家族、友達、知人、知らない人との違いを理解できる。						
29	Develop friends and be liked by peers.	友達を作り、仲間から好かれる。						
30	Demonstrate appropriate behaviors for attending social events.	交流の機会に参加するために適切にふるまうことができる。						
31	Interact with peers outside of school.	学校外の仲間とも交流できる。						
32	Understand the needs of others.	他の人のニーズを理解できる。						
33	Demonstrate an age-appropriate awareness of human sexuality, include concepts of public vs. private, and societal values and attitudes.	性意識、公私の違い、自分の行動が社会からどのようにみられるかの意識を年齢相応に持つことができる。						
34	Demonstrate an age-appropriate awareness of job related concepts, including assuming responsibility and relating to others in work situations.	職場で責任を引き受け、他者と関わる等、仕事に関する概念を年齢相応に持つことができる。						

（注 1）SSAT-VI では、adult disabled peer(大人の障害者の仲間)，non-disabled peer(障害のない仲間)，younger children(年下の子ども)，older children(年上の子ども)との関係について、交流のスタイルがどうかを自由記述する欄が設けられている。

（注 2）SSAT-VI では、one(ひとり)，small group(小グループ)，larger group(大グループ)での遊びの質についても自由記述する欄が設けられている。

Table1-3　視覚障害児・者ソーシャルスキルチェックシート（試案）3/3

項目	原文	邦訳・意訳	全くそう思わない	そう思わない	あまりそう思わない	ややそう思う	そう思う	非常にそう思う
		Cognitive Social Behaviors：認知社会的行動						
A. Self-Identity：自己同一性								
35	1. Demonstrate understanding of visual impairment.	自分の視覚障害の状況を理解できる。						
36	2. Demonstrate awareness of personal competencies and limitations.	自分の能力やその限界を認識できる。						
37	3. Demonstrate awareness of possible adaptations.	どうすれば適応できるのかを認識できる。						
38	4. Advocate for self in school, home, and community environments.	学校、家、地域環境で自分の主張(権利擁護)ができる。						
39	5. Demonstrate assertiveness in appropriate manner.	適切な方法でわかりやすく自分の意見(ニーズや権利擁護等)を言うことができる。						
B. Interpreting Social Situations：社会的状況の解釈								
40	1. Observe and identify opportunities for social interactions.	交流の機会を見つけられる。						
41	2. Interpret social cues and generate strategies for interaction.	きっかけをつかみ、交流するための戦略を立てられる。						
42	3. Anticipate consequences of strategies and select most desired.	その戦略の結果を予測し、最も望ましいものを選択できる。						
C. Performance of Social Skills：ソーシャルスキルの遂行								
43	1. Initiate and perform appropriate behaviors.	適切な行動を実行する。						
44	2. Generalize social skills to a variety of situations.	様々な状況でソーシャルスキルを汎化させる。						
45	3. Sustain social competency over time.	ソーシャルスキルを長期的に維持できる。						
D.　Self-Evaluation：自己評価								
46	1. Demonstrate ability to evaluate and monitor own social performance realistically.	現実的な自分の社会的成果を評価・観察できる。						
47	2. Demonstrate ability to adjust own behavior accordingly.	社会的成果に応じて自分の行動を調整できる。						

Table2-1　視覚障害児・者ソーシャルスキル発達評価シート（試案）1/3

項目	原文	邦訳・意訳	全くできない	ときどきできる	いつもできる
Interaction with Family, Peers, and Others：周囲との関わり					
0～1 歳					
1	Respond to an adult's attempt to interact. *	大人からの働きかけに反応できる。*			
2	Initiate interactions with an adult. *	大人と積極的に関わることができる。*			
3	Demonstrate the ability to differentiate between familiar people and strangers.*	身近な人と見知らぬ人とを区別することができる。*			
4	Respond to the presence of a peer. *	他の赤ちゃんの存在に反応することができる。*			
5	Accept a substitute activity that replaces a socially unacceptable mannerism.	不適切なふるまいをやめることができる。			
2～3 歳					
6	Demonstrate understanding of approval and disapproval of adults. *	大人が承認/否認することを理解できる。*			
7	Address parents or other familiar adults by name.*	両親、あるいは、身近な大人を名前で呼ぶことができる。*			
8	Associate particular adults with routine activities.*	日常的な活動を通して、特定の大人と関わることができる。*			
9	Engage in same activity as a peer. *	仲間と同じ活動ができる。*			
10	Comply with simple directions and limits from adults.*	「待って」等、大人からの簡単な指示や制止に従うことができる。*			
11	Interact with peers or siblings. *	仲間や兄弟姉妹と関わる。*			
12	Address siblings by name.*	兄弟姉妹を名前で呼ぶ。*			
4～7 歳					
13	Interact with blind, low vision, and sighted peers in common situations. *	日常の中で盲児、弱視児、健常児と関わることができる。*			
14	Identify the person in charge in various situations.*	様々な状況で誰がリーダーや先生なのかを見つけることができる。*			
15	Identify situations in which an adult should not be obeyed.*	指示されなくとも、自分でやるべき状況だと理解できる。*			
16	Initiate interactions with peers.*	自発的に仲間と関わることができる。*			
17	Share toys or other items with a peer.*	おもちゃ等を仲間と共有できる。*			
18	Use a peer as a resource.*	リソースとして仲間を活用することができる。*			
19	Indicate preferences in playmates.*	好きな遊び仲間を選ぶことができる。*			
20	Discuss the concept of friendship.	友情とは何か、話し合うことができる。			
21	Describe other people.	他の人について説明できる。			
22	Take turns.*	交代で遊び等の活動ができる。*			
23	Determine when it is not appropriate to share something, and communicate it in an assertive manner.*	何かを共有することが適切でない状況を判断し、相手にわかるように伝えられる。*			
24	Identify the consequences of behaviors in social interactions. *	交流の場でどのような行動がどのような結果につながるかを考えられる。*			
25	Name family members, and discuss the relationship to each of them.	親族・家族を名前で呼び，自分との関係性について話せる。			
26	Maintain contact with parents, guardians, and family members when separated for a long period of time.*	長い間離れていても、両親や家族との連絡を取り続けることができる.*			
27	Respond to humor, and use it in social situations.	ユーモアを理解し、社会的状況で使うことができる。			

Table2-2　視覚障害児・者ソーシャルスキル発達評価シート（試案）2/3

項目	原文	邦訳・意訳	全くできない	ときどきできる	いつもできる
Interaction with Family, Peers, and Others：周囲との関わり					
4～7 歳（続き）					
28	Recognize sarcasm, and respond in an effective manner.	皮肉に気づき、効果的な態度で対応できる。			
29	Interact with blind and low vision adults in a variety of situations.*	様々な状況で、盲や弱視の大人と関われる。*			
30	Initiate, continue, develop, and conclude conversations.*	会話を始め、続け、発展させ、そして終わりにすることができる。*			
31	Discuss the personal likes and dislikes of other people.	他の人の個人的な好き嫌いについて話し合うことができる。			
32	Recognize behaviors that can cause social isolation and demonstrate alternative behaviors that promote social integration.*	孤立につながる行動が何かに気づき、社会参加につながる代替行動がとれる。*			
8～11 歳					
33	Demonstrate affection in socially acceptable ways, considering the person, place, and situation.	人、場所、状況を考慮して、社会的に受け入れられる方法で好意を示すことができる。			
34	Demonstrate the ability to resist peer pressure when resistance is necessary or desirable. *	抵抗しなければならない場合には、仲間の圧力に抵抗することができる。*			
35	Demonstrate skills for resolving conflicts with siblings and peers.*	兄弟姉妹や仲間との摩擦を解決するためのスキルを発揮できる。*			
36	Deal with personal 'insults, ostracism, ridicule, or other mistreatment.	悪口・排除・嘲笑・虐待等に対処できる。			
37	Tolerate some unusual or unexpected behaviors from others. *	他人からの普通でない、または予期しない行動を許容することができる。*			
38	Seek interactions with blind, low vision, and sighted peers and adults in a variety of situations. *	様々な状況で，盲や弱視、健常者の仲間や大人と交流しようとすることができる。*			
12～15 歳					
39	Interact positively with friends.*	友達と積極的に交流できる.			
40	Discuss some problems that might arise with family members or with friends, and suggest strategies that could be used to resolve them.*	起こりうる問題について家族や友達に相談し，それらを解決するための戦略を提案できる。*			
41	Identify how different friends can meet different needs.	様々な友人が相互にニーズを満たせる方法を見つけることができる。			
42	Demonstrate various aspects of planning and carrying out social activities with friends. *	友人との社会活動をさまざまな側面から計画・実行することができる*			
43	Use assertive techniques in appropriate social situations.　*	適切な場面で、相手に伝わる工夫をしながら自分の意見を述べることができる。*			
44	Discuss the rights and responsibilities of an individual in a relationship.*	対人関係の中で個人の権利と責任について話し合うことができる。*			
16～21 歳					
45	Establish and maintain a variety of friendships.	様々な友情を築き，維持できる。			
46	Work effectively in various groups that have a defined purpose or structure.	決められた目的・構造を持つ様々なグループで効果的に働くことができる。			
47	Discuss the concepts of role model(s) and/or mentor(s) for self.	自分にとってのロールモデルとは何かについて話し合うことができる。			
48	Discuss the concept of 'networking, and demonstrate an understanding of its value.	支援者や仲間等の「つながり」について話し合い、その価値を理解することができる。			

（注）*印は、必ずチェックすべき項目である。

Table2-3　視覚障害児・者ソーシャルスキル発達評価シート（試案）3/3

項目	原文	邦訳・意訳	全くできない	ときどきできる	いつもできる
		Self-Concept：自己概念			
0～1 歳					
1	Recognize and respond to name.	名前に気づき、反応できる。			
2	Demonstrate interest in a mirror image. *	鏡に映った姿に興味を示すことができる。*			
3	State own first name. *	自分の名前を言うことができる。*			
4	Demonstrate a strong desire to perform tasks independently. *	自分ひとりで課題をやりたいと強い意欲を示すことができる。*			
5	Demonstrate awareness that his behavior has an effect on	自分の行動が影響を与えるという認識を持つことができる。			
2～3 歳					
6	Indicate a preference. *	好みを示すことができる。*			
7	Demonstrate recognition of own image in a picture or on a videotape, and/or demonstrate recognition of own voice on an audiotape. *	画像や動画から自分のイメージを認識することや、録音された音声から自分の声を認識することができる。*			
8	Use personal pronouns I, you, and me. *	私，あなたといった代名詞を使うことができる。*			
9	Use a variety of methods to get own way.*	自分が思い描いた結果になるよう、様々な工夫ができる。*			
10	Demonstrate an awareness of himself as a separate person.	親と自分は別の独立した個人であると，自分を認識できる。			
11	Show pride in accomplishing tasks. *	課題の達成に誇りを持つことができる。*			
12	State own first name, last name, and age. *	自分の名、姓、年齢を言うことができる。*			
4～7 歳					
13	Separate own possessions from those of others.*	自分の物と他人の物とを区別できる。*			
14	Name things that she can do now that she was unable to do at an earlier age, and name things that she will learn to do, in the future. *	小さいころはできなかったこと、今はできるようになったことを理解し、将来，学ぶつもりであることについて話すことができる。*			
15	State basic information about self. *	自分について基本的な情報を言うことができる。*			
16	State basic information about family members.*	家族に関する基本情報を言うことができる。*			
17	Indicate awareness of own visual and other physical abilities, and differences between his abilities and those of others.*	自分の視機能やその他の身体能力、自分と他人の能力の違いについて認識できる。			
8～11 歳					
18	Discuss personal likes and dislikes. *	個人的な好き嫌いについて話し合うことができる。*			
19	Provide basic information as to own ethnic origin, religious preference, and family background.*	自分の民族、宗教。家族の背景に関する基本的な情報を提供できる．（削除）			
12～15 歳					
20	Evaluate own personality traits, and attempt to modify those that are not functional.*	自分の性格を理解し、機能的ではない部分を必要に応じて変えようとすることができる。*			
21	State own point of view on various specific topics.	様々なトピックについて、自分の見解を言うことができる。			
16～21 歳					
22	State own social security number. *	自分の社会保障番号をいうことができる。（削除）			
23	Obtain and use an identification card.*	パスポートや障害者手帳等、身分証を入手し、活用できる。*			
24	Show pride in personal achievements.	自分の功績に誇りを持つことができる。			
25	Express realistic views of own capabilities and limitations. *	自分の可能性・限界に関する現実的な見解を持つことができる。*			
26	Demonstrate confidence in own decisions, values, and beliefs.*	自分の決断，価値観，信念に自信を持てる。*			

（注）*印は、必ずチェックすべき項目である。

一方，本発達評価シート（試案）の評価方法については，原本とは異なる方法を採用した。SCAでは，①IEPの学年（IEP school year），②ソーシャルスキルが特定の場面で観察できるか（Competency），③それが複数の場面に汎化されているか（Generalized Use）を評価する形式になっており，形成的評価での活用が推奨されていた（Sacks & Wolffe, 2006）。このため，本発達評価シート（試案）は，当該年度の自立活動等の授業で定期的に実施することを想定し，①は削除し，②や③は，場面の確認が容易でないという理由から見直した。これにより評価方法は,「できない」,「ときどきできる」,「いつもできる」になった。

こうして作成した本発達評価シート（試案）は，ソーシャルスキルの活用状況を発達年齢に応じて評価する際に役立つことや，コミュニケーションの指導の系統性を把握する際に役立つことが期待できる。

V．まとめ

本報告では，視覚障害児・者ソーシャルスキルチェックシート（試案）と，視覚障害児・者ソーシャルスキル発達評価シート（試案）を作成・紹介することができた。これらは盲学校が幼児児童生徒にコミュニケーションの指導を行う際，指導時期や指導内容に手がかりを与える資料として役立つ可能性が指摘できる。

例えば，視覚障害児・者ソーシャルスキル発達評価シート（試案）を活用し，合理的配慮を得るためのコミュニケーションに関わるソーシャルスキルを検討すると，次のように提案できる。4 ～ 7 歳では，自身の視覚障害に気づけること（自己概念：項目 17）が重要であるため，障害の認識と障害開示が必要と考えられる。12 ～ 15 歳では，自身の権利や責任を理解し，適切な場面で周囲に分かりやすく意見を伝えられること（周囲との関わり：項目 43・44）が重要であるため，障害者差別解消法を理解し，TPOに応じてわかりやすくニーズを伝え，権利擁護できることが必要だと考えられる。16 ～ 21 歳では，ロールモデルや支援者等とのつながり（周囲との関わり：項目 47・48）を持ち，自分の能力と限界を現実的に見極め（自己概念：項目 25），集団内で効果的に働けること（周囲との関わり：項目 46）が重要であるため，先輩や専門機関等とつながりながら，自分の能力を客観的に把握し，支援を活用し，周囲と同じように機能し，役割を果たせることが必要だと考えられる。上記のうち，12 ～ 15 歳の指導内容は，現在，わが国では高大連携の段階で実施されている（氏間ら，2019）が，高校受験を踏まえ，より早い時期からの指導が必要である可能性が示唆できる。したがって，今後は，両試案に基づく指導を実践の中で検討し，両試案の改良を図ることが課題であろう。

引用文献

相羽大輔・奈良里紗（2019）弱視学生支援サービスに対する健常学生の妥当性評価とそれに及ぼす個人要因の影響．高等教育と障害，1，13-23.

相羽大輔・奈良里紗・増田雄亮・鈴木祥隆（2019）見えにくさを補う手段の違いが弱視学生支援に対する健常学生の態度に及ぼす効果. 障害科学研究, 43, 47-58.

相川充・津村俊充（1996）社会的スキルと対人関係：自己表現を援助する．誠信書房．

あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師学校養成施設カリキュラム等改善検討会（2016）あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師学校養成施設カリキュラム等改善検討会報告書．厚生労働省．

大坊郁夫（1998）しぐさのコミュニケーション―人は親しみをいかに伝えあうか―．サイエンス社．

Loumiet, R., & Levack, N. (1991). Independent living: A curriculum with adaptations for students with visual impairments. Austin, TX: Texas School for the Blind and Visually Impaired.

McCallum, B. J., & Sacks, S. Z. (Eds.). (1994). Santa Clara County social skills curriculum for children with visual impairments. Santa Clara, CA: SCORE Regionalization Project.

中野泰志・相羽大輔・小松真也（2014）ロービジョンの表情認知を促す方策－対面コミュニケーションの課題と工夫に関する実態調査からの考察－．日本視能訓練士協会誌，43（1），55-63.

奈良里紗・渡邊一真（2019）「当事者」視点からみた合理的配慮と学び．日本福祉教育・ボランティア学習学会紀要，33，25-38.

オリエンス研究会（2018）コミュニケーション概論―医療面接を目指して―．岡山ライトハウス．

Sacks, S. Z. & Wolffe, K. E. (2006). Teaching social skills to students with visual impairment : From theory to practice. AFB Press, New York.

氏間和仁・中野泰志・永井伸幸・田中良広・竹林地毅・韓 星民・相羽大輔・大島研介（2019）弱視の高校生を対象にした高大連携プログラム：ICT活用スキルアップセミナーに焦点を当てて．弱視教育，56（4），20-29.

吉岡久美・河﨑智恵・池島徳大（2012）視覚支援学校におけるキャリア教育の授業開発：ソーシャルスキルトレーニングを活用して．学校教育実践研究，4，29-38.

付記

本研究は一部科学研究費（18H01040）の助成を受けて実施された。